



「リトルマミー」は、県ラベンダー研究会の新たなオリジナル品種で、従来の「城南1号」と同じく耐暑性、二季咲き性

長崎ラベンダーの加温と長日処理による開花の前進化

品 種	調査項目	処 理 開 始 日					無処理
		1/21	1/31	2/10	2/20	3/2	
リトルマミー	開 花 日	4/9	4/13	4/19	4/24	5/1	5/16
	花穂数/株	26	25	31	29	25	35
	花穂形成率	100%					
城南1号	開 花 日	4/16	4/20	4/24	4/29	5/6	5/24
	花穂数/株	23	21	24	27	21	28
	花穂形成率	100%					

(春と晩夏に開花)があり、「城南1号」より開花時期が早い、蕾(つぼみ)の紫色が濃い、草姿がコンパクトなどの特徴を有しています。露地植えでは5月20日ごろに開花が始まります

その結果、1月21日～3月2日の間に12度加温と午後10時～午前2時まで電照する長日処理を開始することで、無処理に比べ開花を37～15日前進化でき、花穂形成株率は100%、花穂数は4号ポットで1株当たり25～31本となります(表)。また、処理開始が同じだと「リトルマミー」は「城南1号」よりも開花が5～8日早くなりま

長崎ラベンダー「リトルマミー」 12度加温、長日処理で 開花37～15日前進化

指す場合、「城南1号」より10日遅い処理開始でよく、10日分の暖房コスト削減が可能です。なお、小花の開花始め日を開花日としています。その約10日前の蕾が紫色に色づくころが出荷適期となります。

長崎ラベンダーは、2014年8月までの1年間で約7・2万ポットが出荷され、うち75%を「リトルマミー」が占めており、今後も一層の生産拡大が見込まれています。

が、春のガーデンニング商材や「母の日」の鉢物として出荷するには、開花の前進化が必要です。

ラベンダーの開花には一定の低温を必要とするため、低温遭遇後の加温と長日処理の開始日

(県農林技術開発センター・竹邊永市)